

かわさき区の宝物シート

宝物No.	なんぶせん(しせん) 南武線(支線)			 
22-3				
エリア	中央・田島地区 八丁畷～鋼管通・小田栄	シーズン 日時	通年	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他			
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物			
所在地	幸区南幸町3丁目(尻手駅)～川崎区鋼管通5丁目(浜川崎駅)			<p>マップ</p> 
問い合わせ				
TEL				
FAX				
E-mail				
URL				
交通	京急八丁畷駅またはJR浜川崎駅で乗換			
基礎情報				
<p>■当初は多摩川で採取される砂利輸送を目的に設立された民間鉄道。 ■大正9年(1920)、秋元喜四郎らが「多摩川砂利鉄道」として鉄道敷設免許を申請。同年、免許取得後に「南武鉄道」と改称し会社が設立された。昭和2年(1927)に川崎～登戸間が開通、以後、大丸、分倍河原と路線は延伸され、昭和4年(1929)に川崎・立川間が全通した。当初は、貨物は蒸気機関車で牽引され、旅客は電動客車で運転された。 ■昭和5年(1930)3月に開通した南武支線は、尻手・浜川崎間の5駅4.1km区間をつなぎワンマンの2両編成が折り返し運転を行い、主に平日における沿線工場への通勤に供されている。旅客線は単線だが、並行して複線の貨物線が敷設され、東京貨物ターミナル駅と東海道貨物線を結ぶ路線として多くの貨物列車が運行されている。 ■終点の浜川崎駅は鶴見線の浜川崎駅と道路を隔てて向かい合っている。 ■平成28年(2016)3月26日、川崎新町～浜川崎駅間に小田栄駅が開業した。</p>				
由来・エピソード				
<p>■砂利鉄道の開通に尽力したのは、アミガサ事件など多摩川築堤運動にも大きく貢献した御幸村村議員の秋元喜四郎である。設立発起人総代として免許出願や資金調達、用地買収等に奔走したものの、莫大な建設費用や工事の遅れ、昭和2年(1927)の金融恐慌など開業当初から経営難に陥ったという。窮地を救ったのが浅野セメント(現・太平洋セメント)の創業者浅野総一郎であった。既に青梅鉄道(現・JR青梅線)を系列化していた浅野セメントは、南武鉄道を傘下とすることでセメント原料の石灰石を奥多摩から川崎の工場まで全て系列の鉄道で運搬することと、輸送距離の大幅な短縮が可能となった。両者の利害が一致し、昭和2年(1927)浅野系列の鉄道として川崎～登戸間が開通した。 ■1930年代以降は沿線に日本電気、富士通信機製造(現・富士通)等の工場が進出、沿線人口が急増し、南武鉄道はその通勤客の輸送が主目的となった。また帝都防衛のための軍事施設も沿線に多く造られ、そのための軍事輸送も南武鉄道が担うこととなった。軍事上重要な路線であるため、昭和19年(1944)に戦時買収私鉄指定で国有化された。昭和62年(1987)JR東日本に移行し現在に至っている。 ■石灰石列車は平成10年(1998)に廃止されるまで、長年にわたり南武線の風物詩として活躍した。</p>				
補足・その他			関連シート	
			(22-2)鶴見線 (24-2)デイ・シイのセメントサイロ	